

決めつけちゃダメ、危険だよ

入社2年目、私はある生放送のコーナーを任せられ意気揚々臨んでいた。決まった時間に終えなくてはならない「確定時間」も背負っている。ある日、なぜか30秒近く残しコーナーを締めてしまった。黒く巨大なカメラが無慈悲に私を捉え続ける中、何か言わなくてはと焦った私は「シ、CMの後にはスポーツです!」と不要なコメントを不要に力んでニコリ。しかし、まだたつぷり24秒は残っている。どうしよう…「その後は、ニュースですっ!」どっこいあと18秒。ぬぬぬ「そ、そしてえっ、さらにいつ、お天気もお伝えしますう…(ひーん)」泣き笑いのような情けない表情のまま10秒のフリーズ。CMに入った途端、スタッフの大爆笑に包まれたことは言うまでもない。

しかし私が本当に忘れられないのは、報道番組で、ある事件現場からの中継という大役を任せられた時のこと。大緊張の中、何とか間違えずに終えホッととして帰社した。内心気のきいた表現で締めくくれたのではとさえ思っ

いた。ところが翌日、その番組のキャスターをしていた、いつも穏やかな大先輩が厳しい表情で私に尋ねた。

「ねえ島田君、なぜあんな表現したの?」

「え? 何か、間違えていたでしょうか?」

「間違い、じゃないんだ。君は中継でこう言ったんだよ。

『幸せな家族がなぜこのような事件に巻き込まれてしまったのか』と。だけど、島田君はその家族が幸せだったかどうかなんて何も知らないでしょう。』

頭をガーンと殴られたようなショックだった。そう、私は無意識に自分の雛型に押しはめて伝えていたのだ。こざつぱりした一軒家だから? 近所の人がそう言っていたから? しかし、一見幸せそうに見えたとしてもそうだとはいえない。「決めつけちゃダメ、危険だよ」大先輩はゆっくりと釘をさした。メディアの影響力とは、人の人生を変えてしまうほどのものなのだ。

時がたち私もベテランと言われる年次に。しかし、決めつけない心と目でいることがいかに難しいか、ますますそう感じるようになっていく。放送でも、日々の暮らしの中でも。

確定時間は守れるようになったけれど、今でもあの日の発言を思い出すと心臓がチクリ、脇の下がヒヤリとする、まだまだ修行の25年目です。



愛知県生まれ。株式会社フジテレビジョン チーフアナウンサー兼報道局解説委員。

1998年、フジテレビに入社。報道番組、情報番組を主に担当する。

現在「FNNライブニュース デイズ」メインキャスター。

子どもの安全、家族の生きやすさなどをテーマに取材を続けている。